

「信じる者には何でもできる」(2020.11.15)

イエスは言われた。「『できれば』と言うか。信じる者には何でもできる。」その子の父親はすぐに叫んだ。「信じます。信仰のないわたしをお助けください。」(マルコ9:23~24)

今回も信仰と癒しの関係を考えたい。「信じる者には何でもできる」ということは、信じる者がその信仰の力によって自らの癒しを可能にできるということだろうか。否！信じる者に対してイエス様が自らの力を発揮し癒すことができるということである。だから、このあと「信じます。信仰のない私をお助け下さい」と嘆願した父親に彼の信仰を見て、イエス様が彼の息子を癒されたのである。NIVでは“Everything is possible for him who believes.”となっている。イエス様には「Everything is possible」なのである。「for him who believes.」つまり、信じる者に対して、ということである。



ちょっと理屈っぽくなるが、「信じる者には何でもできる」ということを裏側から見れば「信じない者にはできないこともある。」ということになる。実はそのことを福音書は伝えている。ナザレでのことである。マタイ13:58節、「人々が不信仰だったので、そこではあまり奇跡をなさらなかった。」さらにマルコは並行記事でこう表現している。「そのほかは何も奇跡を行うことがおできにならなかった。」(マルコ6:5)。人々が不信仰だったので、イエス様であっても奇跡をおこなうことができなかったというのである。

そうすると、私たちは不安になる。私の信仰はイエス様に認めていただけるだろうか。でも思い出してもらいたい。息子を癒していただいた父親の言葉である。「信じます。信仰のないわたしをお助け下さい。」「信じます。」と言いながら、一方で「信仰のないわたしを」と言っている。矛盾している。でもこれが父親のありのままの姿であり、信じたいけど信じ切れない、そういう自分をそのままイエス様に丸投げしている。イエス様はそれを彼の信仰と認めて、彼の息子を癒されたのである。

実は私たちもこの父親と同じで、ただ一つ、できることがある。不信仰な自分を丸ごとイエス様に投げ出して、「信仰のないわたしをお助けください」と言って、ゆだねる。主はそれを私の信仰と認めて、大きな力を発揮してくださるのである。

「信じる者には何でもできる」と言われる主に、安心して丸ごとゆだねたいですね。